

イノベーション創発型の林業の推進

1 背景（国の動き）

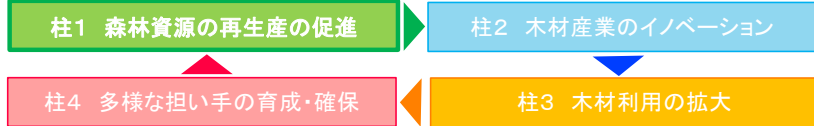
- 林業等の持続性を高めながら成長発展させることで、2050カーボンニュートラルも見据えた豊かな社会を実現するとしている ⇒ **グリーン成長**
 - ・ 森林資源の適正な管理・利用については、循環利用を進めつつ、多様で健全な姿へ誘導するため、再生林や複層林化を推進
 - ・ 林業イノベーションの推進により、伐採から再生林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」を目指す取組を展開

2 高知県の取組方向

* 再生林率の目標（令和9年度）：70%

新たな技術を取り込むことでスマート林業を拡大するとともに、SDGsなど時代のニーズに合った環境に配慮した木材の供給を可能とすることにより、**森林資源の再生産**と県産材の付加価値向上を同時に実現

- 第5期産業振興計画（R6～9）の4つの戦略の柱のうちの一つ「**森林資源の再生産の促進**」に向けた取組を推進



森の工場（施業地の集約化）の拡大による森林資源の再生産の促進

施業地の集約化

新たな森の工場
下刈
皆伐+再生林
皆伐+再生林
林道等
搬出間伐
既存の森の工場(※)
スマート林業(デジタル化等)
人材育成(OJT)

※森林を集約化し、効率的な間伐を展開する本県独自の施策の名称

間伐主体の森の工場(※)に皆伐・再生林を追加した新たな森の工場を核として、**生産性の向上などによる林業収支のプラス転換を推進**

- ・ 基幹となる林道の新設、延伸による林業適地の拡大
- ・ スマート林業等の新たな技術の実証フィールドとして活用
 - ▶ 大径木に対応できる生産システムの導入
 - ▶ 生産性の向上が期待できる先端林業機械の実証・導入

	H30	R3	R9 (目標値)
認定面積	72,799	82,951	100,141

	H30	R3	R9 (目標値)
生産性	3.59	4.24	6.22

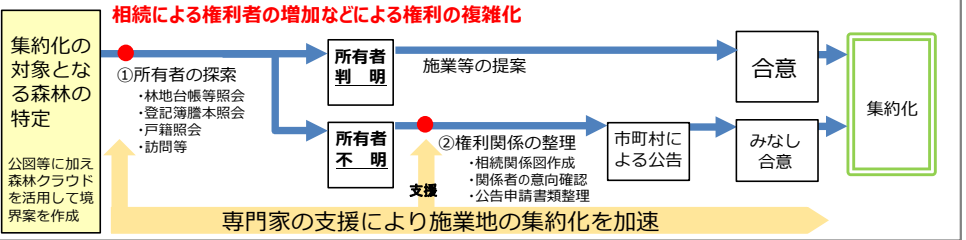
取組を進める上でのボトルネック

3 現状・課題

森林資源の循環利用につながる「原木の安定供給」と「確実な再生林」を推進するため、**施業の集約化**や**スマート林業の導入**等による**生産性向上の加速化が重要**

課題1 収支のプラス転換に向けた「施業地の集約化」と「林業適地の拡大」

- 集約化に必要な森林所有者との合意形成を進めるため、**専門家による支援が必要**
 - ▶ 森林の権利関係が複雑化する中で、施業地の集約化に向けた森林所有者の探索等のノウハウが市町村等に不足



- 林業適地を拡大するため、**基幹となる林道の整備が必要**
 - ▶ 林道の新設、延伸により、間伐や皆伐、再生林などの施業が効率的に実施できる環境を整備

課題2 新たな技術の検証と導入

- 様々な地形条件や資源状況の中で**効果を発揮できる作業システムの検証が必要**
 - ▶ 新たな先端林業機械の実証を独自で進めているものの、伐倒・集材等に係る作業システムの検証が進んでいない

【高知県の地形特性】
急傾斜地(30°~35°)を含む地域特性のため、導入できる先端林業機械に制限

半径500m以内平均傾斜

① 本県の厳しい地形への適応が想定できる先端林業機械の選定

② レンタルによる試験機導入

③ 効果の分析
・ 生産性の向上
・ 軽労化

④ 県内事業者への横展開

フィードバックループによる最適作業システムの構築

林業事業者、試験研究機関、機械メーカーの連携による作業システムの実証・検証

イノベーション創発型の林業を進めるために

提言内容

- 提言1 林業適地において県が広域的に行う**集約化に向けた取組（補助制度の創設）及び林道整備への支援**
- ▶ 権利関係の明確化や森林所有者の探索などについて、司法書士等の専門家を活用した指導・助言等を行う体制の構築及び運営への支援
 - ▶ 集約化の優良事例の拡充及び事例の共有・発信による普及の推進
 - ▶ 林業適地の拡大に向けた生産基盤の整備を推進するため、基幹となる林道整備に要する財源の確保
- 提言2 林業収支のプラス転換に向けて**地形条件等に応じた最適な作業システムを確立するための実証事業等の拡充**
- ▶ 地形条件等が異なる地域において、効果が期待できる先端林業機械等を活用した作業システムの実証等への支援
 - ▶ 大径木の伐採・搬出に対応できる高性能林業機械の導入の推進



再生林を実施した皆伐跡地